

# 関節症性乾癬の 診断と治療

東京大学大学院医学系研究科皮膚科学 吉崎 歩

## KEY WORDS

- 関節症性乾癬 (PsA)
- 生物学的製剤
- CASPAR
- DMARDs

The diagnosis and therapy for  
psoriatic arthritis.  
Ayumi Yoshizaki (講師)

## はじめに

関節症性乾癬(psoriatic arthritis ; PsA)は乾癬性関節炎とも呼ばれ、乾癬患者に認められる関節破壊を伴う慢性炎症性関節炎である。非リウマチ性関節炎であるが、リウマチ同様不可逆的な関節の変形を生じるため、発症早期に診断して治療を行う必要がある。PsAでは、他の乾癬との鑑別に役立つ特有の皮膚症状があるわけではないため、PsAにおける関節炎の特徴を理解しておくことは、診断の際に重要である。治療においてはサイトカインをターゲットとした抗体療法が用いられており、乾癬治療のパラダイムシフトをもたらした。わが国では2010年に抗tumor necrosis factor (TNF)- $\alpha$  阻害薬が承認を受け、保険適応となった。また、2011年には抗interleukin (IL)-12/23 p40抗体が登場し、2015年には抗IL-17抗体が新たに使用可能となるなど、PsA治療の発展は目覚ましい。本稿で

は、PsAの診断と治療についてまとめた。

## I. PsAの疫学

PsAは乾癬患者全体の5～40%を占め、重症の乾癬や膿疱性乾癬では40%を超えると報告されている<sup>1)</sup>。男女比はほぼ等しく、好発年齢は30～50歳代とされる。約70%は皮膚症状が先行するが、15%では同時発症し、残りの15%では関節症状が先行する。皮膚症状の重症度と関節症状の重症度には相関を認めない。PsAは関節リウマチに比べ予後が良好とされてきたが、PsAも骨破壊を早期からきたし、進行性の疾患であることがわかってきた<sup>2)</sup>。PsAが呈する関節症状は多彩であり、約60%に末梢関節や体軸関節の関節炎と付着部炎、約80%に骨・骨膜炎、約50%に指趾炎が認められると報告されている<sup>3)</sup>。